

イワシ類シラスの漁場形成の研究

水産資源調査・評価推進委託事業

(予算区分 受託 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 鈴木聡志

【研究の背景とねらい】

- ・ 静岡県 of イワシ類シラスの年間水揚金額は 30 億円を超える重要な魚種の一つです。
- ・ シラスの漁場形成要因を解明するために、水揚統計資料の収集や太平洋沿岸の卵稚仔の分布、海況変動等を把握することで、シラス漁況の変動特性を検討しました。

【これまでに得られた成果】

(2021 年度の状況)

- ・ 2021 年度漁期 (2021 年 3 月～2022 年 1 月) の主要 6 港 (静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居) における総水揚量は 5,510 トンで、前年 (5,545 トン) の 99.4%、過去 5 年平均 (以下、平年) (5,530 トン) の 99.6% でした (図 1)。
- ・ 3 月の水揚量は前年を下回りましたが、平年を上回りました。4 月は前年、平年とも大幅に上回り、今期最大の水揚量でした。しかし、5 月には減少し、前年、平年ともに下回り、6 月はさらに減少し、前年を下回り、平年並みとなりました。その後、7 月は前年並みで、平年を上回りましたが、8 月は再び大きく減少し、前年、平年ともに下回りました。9 月は増加し、前年、平年ともに上回りましたが、10 月以降は、徐々に減少していき、前年を上回ったものの、12 月を除いて平年を下回りました (図 2)。
- ・ 魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、4 月に最も水揚量が多くなりました。マイワシのシラスは 3～6 月と 12～1 月に漁獲され、4 月に最も水揚量が多くなりました。ウルメイワシのシラスは 3、5、7 月、と 12～1 月に漁獲され、3 月に最も水揚量が多くなりました (図 3)。
- ・ シラス漁況の 2～4 カ月後の予測を行うとともに、調査船による漁場加入前のシラス分布状況を調査し、これらの結果を漁業者や加工業者に広報しました (計 5 回)。

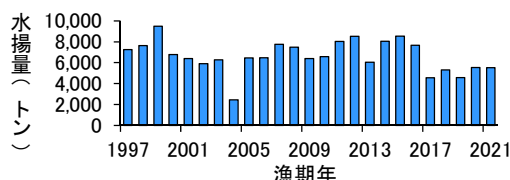


図 1 県内主要 6 港における漁期別水揚量

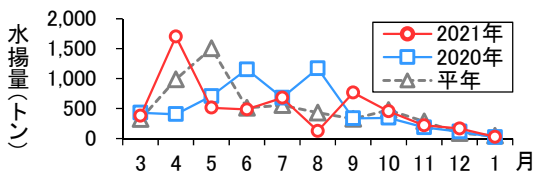


図 2 県内主要 6 港における月別水揚量の推移

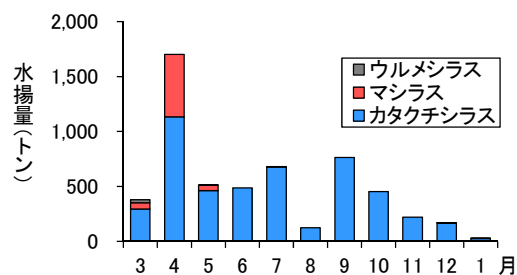


図 3 県内主要 6 港における月別魚種別水揚量の推移

【期待される成果】

- ・ シラス漁場形成の要因が解明され、高精度の漁況予測が可能になると、シラス漁業者は計画的な操業が、シラス加工業者は計画的な出荷が可能となります。

【今後の計画】

- ・ シラス漁況と卵稚仔の分布、海況変動等との関係を明らかにし、さらに漁場加入前のシラス分布調査を行うことで、シラス漁況の高精度の予測手法を確立します。

(作成 2022 年 4 月)